

ポテンシャル いぜん大きくシクロテキストリン

包接・可溶など特異な機能、活躍の場広げる

シクロテキストリンは、包接作用など多様な機能により、食品・医薬品・家庭用品など広範な分野で応用領域を広げている。近年は、その機能構造についての解明も進み、応用の可能領域は一段と広がりをみせている。

シクロテキストリン(サイクロテキストリン、CD)は、カップ状をした環状オリゴ糖。ブドウ糖が6個の α -D、7個の β -D、8個の γ -CDの3種類がある。いずれも微小な空洞を備え、多様な分子の包接・徐放機能・熱・紫外線・酸化・加

水分解などの影響を遮断する安定化機能、いやな臭いを消すなどのマスキング機能などを広範な分野で応用が期待される。

一方、日本シクロテキストリーン工業会(中久喜謙太会長)は、塩水港精糖、シクロケム、純正化学、日本食品化工业、ルシャンの5社を中心とした天然の可溶化剤などをとして化粧品などにも応用領域が広がっている。

他方、日本シクロテキストリーン工業会(中久喜謙太会長)は、塩水港精糖、シクロケム、純正化学、日本食品化工业、ルシャンの5社を中心とした天然の可溶化剤などをとして化粧品などにも応用領域が広がっている。

各社が講演。多くの食品企業の開発研究者に高評価を得た。工業会は今後も学会や研究会でCDを紹介し、広範な応用を支援する方針。

また、ナレッジの組み立ては、B-CD推奨配合量の設定、第8版食品添加物規格公定書に沿ったCD分析法の解説書作成等、ユーザーの立場に立った情報提供を進めている。今年9月9~10日の日程で第26回CD学会のシンポジウムが、栃木県総合文化センターで開催され予定。国内外の大学・企業のCD研究・開発者が集い最新の成果が紹介される予定で、CD工業会も協賛する。

一方、コエンザイムQ10(CoQ10)包接体が、ここにきて脚光を浴びている。数年前のアーム吸収性に難ありとして下火となつたが、CoQ10を γ -CDで包接することによる吸収性が18倍に向上、同時に安定化も格段にアップすることが判明。また、CoQ10包接体の構造分析も進み、5分子の γ -CD空隙を2

茶さらじアーモンド、天然ミートフレーバーなどの各種粉末製品群を取り揃えている。

一方、同社のCDを特徴付けるのが、CDにマルチスを付加した分岐CDのインエリート。全CD 80%以上のP、L、Oなどを捕え、アンチエイシング、ダイエット効果で知られる α -リボ酸などの包接への応用例で知られる。同社は昨年、

CDのインエリート。全CD 80%以上のP、L、Oなどを捕え、アンチエイシング、ダイエット効果で知られる α -リボ酸などの包接への応用例で知られる。同社は昨年、

CDのインエリート。全CD 80%以上のP、L、Oなどを捕え、アンチエイシング、ダイエット効果で知られる α -リボ酸などの包接への応用例で知られる。同社は昨年、

CDのインエリート。全CD 80%以上のP、L、Oなどを捕え、アンチエイシング、ダイエット効果で知られる α -リボ酸などの包接への応用例で知られる。同社は昨年、

講演会やシンポジウムも活発

日本食品化工 ミックス品強み 食品用途に攻勢

日本食品化工は「セルデックス」のブランドで、独自の結晶(粉末)および液状CDで食品分野、健康食品分野を中心とした展開を強化する一方、CD誘導体で化粧品分野、医薬部外品分野などでの展開を一段と強化している。同社のCDは、有機溶媒を使用しない、無溶媒による製造が特徴。 α -CDの純品のほか、食品用途を中心に展開する3種類のCDのミックス品が独自のセールスポイントとなっている。

ミックス品では、セルデックスTB-50や液状品の同SL-10、SH-1

他方、CDの応用開発で最近顯著なのが健康・医療関連分野。ここでも多様な生理活性を持つ α -CDの積極姿勢が目立つ。その一例が、トコトリエノール(スペルタミンE)包接体。また、 β -Dアーチャー接体も、シクロケムと同社代表の寺尾氏が監修で生体内で安定化させ、生体内で安定化させることによ

る。アスペクトが主因とされる悪性中皮腫の予防・治療への応用を目指す。厚生省の政策創議研究事業の一環で、独立行政法人の国立健康・栄養研究所が9年度も継続して研究を推進する。また、プロテアーゼ包接体も、シクロケムと同社代表の寺尾氏が監修で

授を務める東京農大との共同研究が進む。消化酵素プロテアーゼは加

えて、日本食品化工は「セルデックス」のブランドで、独自の結晶(粉末)および液状CDで食品分野、健康食品分野を中心とした展開を強化する一方、CD誘導体で化粧品分野、医薬部外品分野などでの展開を一段と強化している。同社のCDは、有機溶媒を使用しない、無溶媒による製造が特徴。 α -CDの純品のほか、食品用途を中心に展開する3種類のCDのミックス品が独自のセールスポイントとなっている。

ミックス品では、セル

デックスTB-50や液状

品の同SL-10、SH-1

が主力。前者は α 、 β 、 γ -CDミックスの含有量が40、45%。後者は同様20%前後の含有量。

いずれも、3種のCDが含まれているため、天然系食品素材の複合的な香味や異味に対するマスクング効果が大きい。また、各 α 、 β 、 γ -CDの分離工程経ないので、香料や茶葉料など多様な食品や飲料に応用実績がある。

また、純品では粉末の β -CDであるセルデッ

クスB-100が非食品

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、

低コストであることと相

べきである。この手の商品

開発が進む。

前者は、資生堂と共に

開発したもの。植物由来エキス等のポリフェノール類や難水溶性物質を水溶化し、安定化する。

この手の商品の持続的で

高いコストであることも強

み液状ではさらに製造

時間もかかる。また、